

Dec 1943

(限 内 部)

# 海軍公報

(部内限) 第四千五百五十四號

海軍大臣官房

昭和十八年十二月一日(水)

## 令 達

官房機密第四五八號

海軍省構内印刷内規左ノ通定ム

昭和十八年十一月二十九日

海軍大臣

### 海軍省構内印刷内規

第一條 海軍省構内各局部ノ印刷ハ海軍艦政本部製圖工場附屬印刷工場(以下構内工場ト稱ス)又ハ海軍管理工場文壽堂(以下管理工場ト稱ス)ニ於テ本内規ニ依リ之ヲ行フモノトス

工場作業力ノ關係上前項ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ他ノ部内ノ廳ニ委託シ又ハ機密ニ亘ラザルモノニ限リ他ノ部外工場ト契約シ印刷セシムルコトヲ得

第二條 海軍省副官ハ艦船部隊其ノ他各部ニ於テ特ニ必要アル場合其ノ印刷物ノ委託ヲ受クルコトヲ得

前項ノ印刷ニ關シテハ前條第二項ノ規定ヲ除クノ外

本内規ヲ準用ス

第三條 印刷請求ノ受理、工場ノ指定及緩急順序ノ決定ハ海軍省副官之ヲ行フモノトス

第四條 印刷請求應(第二條第一項ノ印刷物ニ付テハ海軍大臣官房)ハ印刷請求票(別紙様式)ニ必要事項ヲ記入捺印ノ上原稿ヲ添ヘ海軍省副官ニ請求スルモノトス但シ軍極秘以上ノ印刷原稿ハ海軍省副官ノ捺印ヲ經タル印刷請求票ヲ添ヘ印刷請求應ヨリ直接構内工場主任又ハ管理工場勤務首席監督官ニ手渡シスルモノトス

第五條 印刷ハ謄寫版等ニテハ處理シ得ザル技術又ハ部數ヲ必要トスルモノニ限ル

第六條 印刷物ノ校正ハ印刷請求應自ラ之ニ任ジ校正終了シタルトキハ構内工場印刷ノモノニ在リテハ直接同工場ニ、管理工場印刷ノモノニ在リテハ大臣官房係員ニ校正印刷ヲ返送スルモノトス但シ管理工場ニ於テ印刷スル軍極秘以上ノ印刷物ノ校正ハ印刷請求應ヨリ所要ノ人員ヲ派遣シ同工場内ニ於テ之ヲ行

海軍公報(部内限) 第四千五百五十四號

昭和十八年十二月一日

一一九九

0540

海軍省 副官

關係各廳長殿

兵器簿ノ件通知

兵器簿整備長主督トアルハ十二月一日附之ヲ兵器簿飛行長主管第一類ニ改メラレ候

官房備機密第一四五號ノ二三

昭和十八年十二月一日

海軍省 副官

各廳長殿

郵便物ニ關スル件通牒

官房備機密第一四五號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

附錄部隊區別符表(其ノ一)中「第六十八防空隊

ウ參壹參」第二部隊「參壹四」ヲ加フ

同(其ノ三)中「第二部隊「イ九九」ヲ加フ

別表海軍軍用郵便所及同派出所一覽表中第三十二海軍

軍用郵便所第一派出所ノ項「赤城丸」ヲ「第一雲洋丸」ニ改ム

フモノトス

第二條第一項ノ印刷物ノ校正ニ付テハ海軍省副官ノ定ムル所ニ依ル

第七條 管理工場ニ於テ印刷シタル成品ノ輸送ハ東京

監督長ノ定ムル所ニ依リ管理工場勤務ノ准士官以上之ニ任ジ部内自動車ヲ以テ之ヲ行フモノトス

第八條 印刷費ハ印刷請求廳ノ負擔トス但シ第二條第

一項ノ印刷物ニ關シテハ其ノ都度海軍省副官ヨリノ通知ニ基キ海軍艦政本部會計部ニ於テ之ヲ處理スルモノトス

(様式添)

官房經機密第八八二號

當分ノ間海上護衛總司令部ノ附屬艦船部隊ノ支拂ニ屬スル經費ハ艦隊經費支辨トス

本令ハ昭和十八年十一月十四日ヨリ之ヲ適用ス

昭和十八年十一月三十日

海軍大臣

○通牒

官房空機密第八號ノ四一四

昭和十八年十一月三十日

0541

經給機密第二二二號

昭和十八年十一月二十九日

海軍省 經理局長

關係各廳長殿

兵ノ臨時家族手當相當額支給ニ關スル件  
中改正ノ件通牒

昭和十六年經給機密第一〇號中左ノ一號ヲ加フ

三 前號ノ家族手當相當額ハ公務ニ因ラザル傷痍疾  
病ノ爲賞與ノ支給ヲ受ケザル者ニモ支給スルモノ  
トス

○ 辭 令

聖川丸無線通信局長 稻葉 覺三  
囑託ヲ解ク(海軍省)

釜山在勤海軍武官府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏  
任官待遇トス(海軍省)

第八海軍建設部ニ於ケル事務ヲ囑託ス  
但シ報酬年額千貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇ト  
ス(海軍省)

獨國ニ於ケル造船造兵監督事務囑託

各) 七千四百拾馬克

(通) 同

五千八百八拾馬克

自今報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給ス(海軍省)

(各通)

支那方面艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(海軍省)

内務技師 嶋野 貞三

海軍省事務囑託ノ報酬トシテ金百貳拾五圓ヲ贈與ス  
海軍省事務囑託ヲ解ク

野村 正男

ニューギニア民政部ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(以上  
計十名同)

松山 幸雄

第一南遣艦隊司令部ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(以上  
同)

宮崎 孝男

南西方面海軍民政部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千六百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待  
遇トス

海軍公報(部内限) 第四千五百五十四號 昭和十八年十二月一日

一三〇一

0542

佐藤 治郎  
セレベス民政部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官  
待遇トス

大谷 喜光

フイリピン國在勤帝國大使館附海軍武官ノ事務ヲ囑  
託ス  
但シ報酬年額千六百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待  
遇トス

山田 不二男  
セレベス民政部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官  
待遇トス

松本 誠治  
大湊海軍運輸部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官  
待遇トス(以上註同)

新村 龍雄  
鈴木 哲夫  
宮澤 基厚  
有永 弘兒  
橋本 源一  
武智 三郎  
國分行一

(各通)

新居崎 邦宜  
牛田 健二  
海軍航空本部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待  
遇トス

吉田 八三

南西方面海軍民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏  
任官待遇トス(以上註同)

(各通)

上田 好文  
横内 龍雄

海軍艦政本部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待  
遇トス(註同)

海軍技術中佐 濱村 尊義

購買名簿調査委員會委員ヲ免ス

海軍技師 西川 政一

購買名簿調査委員會委員ヲ命ス(以上註同)

佐藤 太郎

第一南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千貳百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官  
待遇トス

平江 士

南西方面海軍民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏  
任官待遇トス

海軍經理學校教授囑託 上田修一郎  
自今報酬年額千四百七拾圓ヲ給ス

村上 湊  
第百二海軍軍需部ニ於ケル業務ヲ囑託ス  
但シ報酬年額千六百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

六所 靜一  
海軍技術研究所ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限勅任官待遇トス  
鳴海 三郎  
尾見 半左右  
原口 猷一  
篠田 四五  
近藤 重雄  
海輪 利正  
千葉 茂太郎  
堀 元夫

(各通)

海軍技術研究所ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス  
小泉 芳縣

第二海軍火藥廠ニ於ケル海軍共濟組合醫療業務ヲ囑託ス

託ス  
但シ報酬年額千參百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上三同)

海軍中佐 西原 市郎  
瑞西派遣官事務所ニ要スル經費支拂ノ爲臨時資金前渡官吏ヲ命ス  
海軍大佐 山田 精二  
臨時資金前渡官吏ヲ免ス(以上三同)支出官 海軍省 經理局長)

(各通)

高橋 武  
狩俣 一雄  
藤村 秀次  
海軍省南方政務部ニ於ケル事務囑託ヲ解キニユトヤニア民政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス(報酬待遇如故)  
依田 克雄  
海軍省南方政務部ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(以上三同) 海軍省南方政務部)

○ 雜 款

○事務引繼  
在瑞西國臨時資金前渡官吏十一月十七日事務引繼ヲ了

海軍公報(部内限) 第四千五百五十四號 昭和十八年十二月一日 一三〇三

ス  
前任 海軍大佐 山田 精二  
後任 海軍中佐 西原 市郎

○郵便物發送ニ關スル件  
當隊宛郵便物中第二百十一、第二百三十一、其他設營隊ノ重要ナル文書混同送付シアリテ之ヲ轉送スル時ハ數ヶ月ヲ經過シ諸計畫上支障尠カラズト思考候條發送ニ當リ充分注意相成度  
尙當隊宛郵便物ハ(急送扱)トシテ發送相成度  
横須賀郵便局氣付 ヲ六參 ヲ壹參五ハ  
(第二百二十一設營隊)

○轉入者ニ關スル件  
今期補充交代ニ依ル當司令部ヘノ轉入者ハ第八潜水艦基地隊内第七潜水戰隊司令部ニ向ケ轉動セシメラレ度  
(第七潜水戰隊司令部)

0545

(様式)

機 種	請求應 No.	取扱者	請求年 月	日
	印刷物名		受取年 月	日

請求應番號 No. \_\_\_\_\_

◎官房受付番號 No. \_\_\_\_\_

海軍省 副官	<b>印刷請求票</b>					請求應 主務課長	
	機	請求年月日	昭和	年	月		日
官係 房員	種	請求應名	部			課	
	印	名稱					
構工主 内場任	刷	見本 添付	枚(部)	原稿 枚數	枚		
	物	種類	活版 平版 (石版)	部 數	枚 (部)		
構工副 内場任	完成月日	請求應 承認	一月	日	校正法 工場責任校正	枚	
	※作	組済 手月日	月	日	初校 回付日	月	日
管工監 理場官	業	校月	月	日	印刷 完成月日	月	日
	備	了日	月	日	受者		
	考	交月	月	日	領印		
		付日	月	日			
						省 内	電話 番號
							◎工場 別

(昭和十八年十二月一日(海軍公報(部内限))

記事 (イ) 様式通洩ナク記載シ不用文字ハ抹消スルコト  
 (ロ) ◎印ハ大臣官房ニ於テ※ハ印刷工場ニ於テ記入ス

0546

# 海軍公報 (部内限) 第四千五百五十五號

昭和十八年十二月二日(木) 海軍大臣官房

## ○令達

官房備第二五五號  
昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス

昭和十八年十一月三十日

長

(大)

海軍大臣

(根 部内 支 部)

表中第十二海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所員「専任  
七人判任」ヲ「専任十三人判任」ニ、第十四海  
軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所員「専任五人判任」  
「専任十三人判任」ニ改ム

(参照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナ  
リ(昭和十七年十月六日本欄)

官房軍機密第一四一九號

昭和十八年十二月一日

各鎮守府司令長官殿

海軍大臣

海軍公報(部内限) 第四千五百五十五號

昭和十八年十二月二日

一三〇五

練習艦艇配當ノ件中改正ノ件訓令

昭和十七年官房機密第二九六五號別表中左ノ通改正ス  
海軍潛水學校ノ項ヲ削ル

(内令提要卷三、六〇頁参照)

官房人機密第九二一號

本年十二月一日現在左記上欄各部ノ職員タル者ハ特ニ  
發令セララルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ各下欄ノ  
相當職員ニ補命セララル義ト心得ベシ

昭和十八年十二月一日

海軍大臣

記

第八聯合特別陸戰隊

第十四根據地隊

吳鎮守府第六特別陸戰隊

第八十八警備隊

官房經機密第八八六號

當分ノ間特設海上護衛隊司令官部下艦船ニ乗組ミタル

0547



トキハ其ノ間航海加俸ノ十分ノ四ヲ増給ス  
昭和十八年十二月一日

海軍大臣

官房經第一二八八號

當分ノ間艦船部隊、學校及病院勤務ノ下士官兵ニシテ  
公務ニ依リ旅行ヲ爲ストキハ一人ニ付二食以内ノ適宜  
ノ糧食ヲ給與シ之ヲ携行セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ糧食ヲ給與シタルトキハ一食ニ付三  
十錢ヲ旅費ヨリ減額スルモノトス

第一項ノ規定ニ依リ糧食ヲ給與シタルトキ所轄長必要  
ト認ムル場合ハ前項ノ規定ニ依ラズ一食ニ付三十錢ヲ  
辨償セシメ之ヲ歳入ニ納付スルコトヲ得

昭和十八年十二月一日

海軍大臣

官房經第一一九九號ノ二

昭和十八年官房經第一一九九號中左ノ通改正ス

昭和十八年十二月一日

海軍大臣

第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

昭和十五年十月二十二日以降見習工員ヲ成業シタル工  
員ニシテ戰時海軍工員規則第九十四條第二項ニ該當ス  
ルニ至リタルモノニ支給スル誓約賞與ハ死亡ノ日受タ  
ベキ給料七十四日分以内トシ廳長ニ於テ適宜給額ヲ定  
メ之ヲ支給スルコトヲ得

(參照) 昭和十八年十一月二日海軍公報(部内限)

官房經第一二八七號

昭和十六年官房第五三一六號中左ノ通改正ス

昭和十八年十二月一日

海軍大臣

第一號中「所屬長官ノ認許ヲ受ケ」ヲ削ル

第二號中「軌道賃」ヲ削リ「就業廳所在地ノ市」ノ

下ニ「東京都ニ在リテハ區ノ存スル區域ヲ謂フ以下之  
ニ同ジ」ヲ加フ

第三號中「六十錢以内ニ於テ朝夕食代ノ實費ヲ食卓料  
トシテ支給スルコトヲ得」ヲ「六十錢ヲ食卓料トシテ

支給ス」ニ、「二圓二十錢」ヲ「二圓五十錢」ニ、「前  
二項」ヲ「前項」ニ改ム

(參照) 海軍會計法規類集三卷 二〇八ノ二頁

官房經第一二九一號

昭和十七年官房第二〇〇一號中左ノ通改正ス

昭和十八年十二月一日

海軍大臣

別表中

准士官、上等下士官（樺太以外ノ内地陸上勤務外宿中ノ一、二級俸ノ者）、判任文官  
判任文官待遇者、雇員 備人

准士官、上等下士官（樺太以外ノ内地陸上勤務外宿中ノ一、二級俸ノ者）、判任文官、同待遇者  
雇員 備人

ニ改メ同表備考第一號ニ左ノ一項ヲ加フ

夜間勤務ヲ命セラレ午後七時以前出務シ翌朝午前六時以後ニ及ブ者ニハ二食分ヲ支給スルコトヲ得但シ公暇日ノ午後七時以前出務シ翌朝午前六時以後ニ及ブ者ニハ三食分ヲ支給スルコトヲ得

同表備考第六號中「毎月末」ヲ「四月及十月ニ於テ前六月間ノ」ニ改ム

（参照）昭和十七年四月二日海軍公報（部内限）

官房艦機密第六〇一六號

昭和十八年十二月一日

海軍大臣

各鎮守府 司令長官  
各警備府 司令長官  
海軍兵學校 校長  
海軍機關學校 校長  
兵器簿ノ件通達

艦船部隊（特設艦船ヲ含ム）學校兵器簿運用長、機關長、砲術長及水雷長主管ノ部中左記ノ通改正ス

記

兵器簿ノ主管ヲ左ノ通改メ之ヲ襲用セシム  
機關長主管

- (一) 敷設艇江之島、黒神、黒島、片島、戸島、似島、鷺崎、第百一號、第百二號、第百三號掃海特務艇、驅潛特務艇中第百五十一號、第百五十二號、第百五十三號ヲ除ク各驅潛特務艇、魚雷艇、特設艦船（特設測量艦白沙ヲ除ク）及雜役船兵器簿ヲ夫々兵器簿内務長主管ニ改ム
- (二) 前項以外ノ艦船（艇）（潜水艦ヲ除ク）兵器簿表紙中「機關長主管」ヲ「内務長主管」ニ改ム
- (三) 艦隊、戰隊、部隊（潜水隊ヲ除ク）學校兵器

海軍公報（部内限）第四千五百五十五號

昭和十八年十二月二日

一三〇七

0549

(ロ) 簿ヲ内務長主管ニ改ム  
運用長主管

(一) 同一廳内ニ内務長主管又ハ  
機關長主管 兵器  
簿ナキ廳ニアリテハ之ヲ内務長主管ニ改ム

(二) 前項以外ノ各廳ニアリテハ其ノ用紙ヲ拔取リ  
之ヲ廳内内務長主管又ハ  
内務長主管 兵器簿ニ  
綴込ムモノトス  
機關長主管

(二イ) 内務長主管及  
機關長主管 兵器簿用紙中九五式  
機銃射擊裝置用管制裝置之部、九八式發砲裝置之  
部、水壓ポンプ之部及空氣壓縮ポンプ之部ヲ拔取  
リ左ノ主管兵器簿ニ綴込ムモノトス

(一) 九五式機銃射擊裝置用管制裝置之部、九八式  
發砲裝置之部、水壓ポンプ之部及空氣壓縮ポン  
プ之部(發煙器用ノモノ)ヲ砲術長主管兵器簿  
ニ

(二) 空氣壓縮ポンプノ部ヲ水雷長主管兵器簿ニ  
砲術長主管兵器簿用紙中電氣通信器之部(高聲  
電話器一般交換用ノモノ)、同(高聲令達裝置)、  
同(高聲通話器用ノモノ)及同(呼鐘裝置)ヲ拔

(ロ) 取リ之ヲ内務長主管又ハ  
機關長主管 兵器簿ニ綴  
込ムモノトス  
(ハ) 内務長主管又ハ  
機關長主管 兵器簿用紙中砲類  
竝ニ探照燈關係電動機及同關聯裝置ヲ砲術長主管  
ニ移管ニ伴フ改正ハ逐次行フコトトス  
(一) 拔取ルベキ用紙中本通達ニ關係ナキ兵器  
ノ定數設定シアルモノハ其儘トシ追テ逐次  
改正ス  
(二) 拔取リタル用紙ヲ綴込ムベキ當該主管兵  
器簿ナキ艦船部隊ニアリテハ本用紙ヲ別冊  
整理トシ之ニ要スル兵器簿表紙ハ海軍艦政  
本部長ヲシテ各所屬海軍軍需部長ニ後送セ  
シム

○ 通 牒

官房人第二七〇三號

昭和十八年十一月三十日

海 軍 次 官

關係各廳長殿

0550

内地在住朝鮮同胞男子ノ戸籍及寄留整備  
ニ協力ノ件通牒  
首題ノ件ニ關シ別紙ノ通司法次官ヨリ依頼有之候條可  
然取計相成度

(別紙)  
司法省 民事甲第八六六號  
民事局

昭和十八年十一月十二日

司法次官 大森 洪太

海軍次官 澤本頼雄殿

内地在住朝鮮同胞男子ノ戸籍及寄留整備  
ニ協力方依頼ノ件

内地在住朝鮮同胞男子ノ戸籍及寄留ニ付テハ本年三月  
一日一齊調査ヲ施行シ其ノ後引續キ之ガ整備實施中ニ  
有之候處客月二十三日開催ノ全國地方裁判所長會同ニ  
於テ之ニ關シ左記ノ希望有之候ニ付テハ貴省管下關係  
官署、團體等ニ對シ之ガ協力方可然御配慮相煩度此段  
及御依頼候也

記

一 朝鮮同胞ニ對シテハ市町村役場、警察署、財團法  
人協和會ノ三者ガ更ニ協力ヲ緊密ニシ管下在住同胞

ノ戸籍寄留ノ整備ニ努力スルコト  
一 軍事上機密ニ屬スル作業(例ヘバ飛行場ノ建設  
等)ニ從事スル集團的朝鮮同胞ノ整備調査ニ關シテ  
ハ更ニ一層軍部トノ連絡ヲ密接ニスルコト

○ 辭 令

(各通)

海軍軍醫大佐 結 城 華  
海軍軍醫少佐 野 田 浩一郎

昭和十八年十一月施行海軍軍醫、藥劑學生採用試験  
臨時委員ヲ命ス(計四海軍省)

大阪海軍經理部

海軍主計大尉 大 鶴 滋保

大湊海軍經理部

同 本 多 保一

高雄海軍經理部

同 松 井 直行

鎮海海軍經理部

海軍主計中尉 今 井 資八

海南海軍經理部

海軍主計少佐 脇 水 利勝

海軍公報(部内限)第四千五百五十五號

昭和十八年十二月二日

一三〇九

0551

横須賀海軍經理部名古屋支部	海軍主計大尉	池田 亮三
第一海軍經理部	同	三輪 禮二
同 香港支部	同	立野 修
同 漢口支部	同	副島 貞美
第四海軍經理部	海軍主計中尉	伊藤 央幸
同 タエゼリン支部	海軍主計大尉	高島 清
第八海軍經理部	海軍主計中尉	大久保 豊治
第一百海軍經理部	海軍主計中佐	徳永 春雄
同 西貢支部	海軍主計兵曹長	渡邊 正紀
第一百二海軍經理部	海軍主計大尉	世良 晃志郎
同 マカツサル支部	海軍書記	水島 正樹
(通各)		
同 パリツクバン支部	海軍主計中尉	鈴木 龍太郎
第三百三海軍經理部	海軍主計少佐	舩田 正雄
同 ダバオ支部	海軍主計中尉	高津 環
長野地方海軍人事部	海軍少佐	金石 外次郎
秋田地方海軍人事部	海軍主計兵曹長	田中 重藏
仙臺地方海軍人事部	海軍主計中尉	佐々木 周悟
金澤地方海軍人事部	海軍主計少尉	石介 才二
青森地方海軍人事部	海軍主計兵曹長	白井 好
神戸地方海軍人事部	海軍大佐	大野 功
高松地方海軍人事部	海軍主計中尉	澤谷 進
高知地方海軍人事部	海軍主計兵曹長	是永 種義

津 地方海軍人事部	海軍主計少尉	堀井 秋男
松江地方海軍人事部	同	朝日 長市
札幌地方海軍人事部	海軍豫備少佐	狩野 信吉
新潟地方海軍人事部	海軍主計兵曹長	佐藤 虎松
若松在勤海軍武官府	海軍大佐	中野 郡次
伏木在勤海軍武官府	海軍少尉	永井 二郎
伊萬里灣在勤海軍武官府	同	出水田 純
三池在勤海軍武官府	海軍兵曹長	大串 松一
長崎在勤海軍武官府	同	皆川 重勝
函館在勤海軍武官府	海軍中尉	永井 長作
釧路在勤海軍武官府	海軍大佐	土田 數雄
釜山在勤海軍武官府	海軍兵曹長	木下 龍夫
清津在勤海軍武官府	同	西川長右衛門
臺北在勤海軍武官府	海軍主計中尉	影井 梅夫
基隆在勤海軍武官府	海軍兵曹長	村上 惣工見
南洋群島在勤海軍武官府	海軍主計大尉	千田 喜平
廣東在勤海軍武官府	海軍大佐	宮坂 義登
滿洲國在勤帝國大使館附海軍武官事務所	海軍中佐	加治木喜久雄
北京在勤海軍武官府	海軍主計中尉	山下 留雄
天津在勤海軍武官府	海軍大佐	遠藤 實
各肩書ニ於ケル國防獻金、恤兵金、學藝技術獎勵金分任 出納官吏ヲ命ス(以上ハ勤海軍省經理局長)	海軍主計大尉	後藤 武彦
佐世保海軍經理部國防獻金、恤兵金、學藝技術獎勵		

海軍公報(部内限)第四千五百五十五號

昭和十八年十二月二日

一三二

0553

金分任出納官吏ヲ命ス

同 荒井 勳

右同分任出納官吏ヲ免ス(以上ハ同海軍省經理局長)

同 高山 博吉

佐世保海軍經理部國防獻金、恤兵金、學藝技術獎勵

金分任出納官吏ヲ命ス

同 後藤 武彦

右同分任出納官吏ヲ免ス(以上ハ同)

海軍書記 菅野 陳可

第一百海軍經理部西貢支部國防獻金、恤兵金、學藝

技術獎勵金分任出納官吏ヲ命ス

海軍主計兵曹長 渡邊 正紀

右同分任出納官吏ヲ免ス(以上ハ同)

海軍主計中尉 沼倉 武治

第四海軍經理部國防獻金、恤兵金、學藝技術獎勵金

分任出納官吏ヲ命ス

海軍主計中尉 伊藤 央幸

右同分任出納官吏ヲ免ス(以上ハ同)

海軍主計大尉 片峰 吾一

第十一特別工作部學藝技術獎勵金分任出納官吏ヲ命

ス

同 及川 禮次

右同分任出納官吏ヲ免ス(以上ハ同)

同 小笠原 正義

第三百三海軍經理部國防獻金、恤兵金、學藝技術獎勵

金分任出納官吏ヲ命ス

海軍主計少佐 舛田 正雄

右同分任出納官吏ヲ免ス(以上ハ同)

海軍主計大尉 上阪 龍太郎

舞鶴海軍經理部國防獻金、恤兵金、學藝技術獎勵金

分任出納官吏ヲ命ス

海軍主計大尉 花輪 桂

右同分任出納官吏ヲ免ス(以上ハ同)

同 山本 正三

橫須賀海軍經理部名古屋支部國防獻金、恤兵金、學

藝技術獎勵金分任出納官吏ヲ命ス

同 池田 亮三

右同分任出納官吏ヲ免ス(以上ハ同)

同 安川 泰

ジャカルタ在勤海軍武官府國防獻金、恤兵金、學藝

技術獎勵金分任出納官吏ヲ命ス(以上ハ同)

0554

海軍主計兵曹長 嶋田 三郎  
 金澤地方海軍人事部國防獻金、恤兵金、學藝技術獎  
 勵金分任出納官吏ヲ命ス  
 海軍主計少尉 石倉 才二  
 右同分任出納官吏ヲ免ス(以上三同)

○ 雜 款

○書類送達ニ關スル件  
 當隊左記派遣隊ハ本隊ト甚シク隔絶シ各部トノ交通連  
 絡ハ各別箇ノ經路ヲ辿ル場合多ク本隊ヲ經由スルトキ  
 ハ徒ニ時日ヲ遷延シ事務處理上不便不勘ニ付自今關係  
 書類ハ各派遣隊毎ニ直送ノ上本隊ニ寫送付ノコトニ取  
 計相成度

追テ下士官兵人事ニ關シテハ各派遣隊長所轄長ノ職  
 務ヲ代行シアルノ外各派遣隊毎ニ臨時分任出納官吏  
 及兵備品取扱主任(主計長主管)任命セラレアリ

第五十一警備隊武藏派遣隊

- 同      ヲ壹貳六    ヲ壹五壹    ヲ貳貳貳
- 同      榎鉢派遣隊    ヲ壹貳八    ヲ壹五壹    ヲ貳貳貳
- 同      松輪派遣隊    ヲ壹〇八    ヲ壹五壹    ヲ貳貳貳

同

天寧派遣隊  
 ヲ壹壹〇    ヲ壹五壹    ヲ貳貳貳  
 (第五十一警備隊)

○練習生採用試験問題發送ニ關スル件照會  
 當隊ハ僻陬且交通極メテ不便ニシテ聯合試験不可能ニ  
 付自今首題ノ件一通航空便ニテ至急發送相成度  
 (第六十六警備隊)

○事務所移轉

海上護衛總司令部ハ十二月二日事務所ヲ海軍省構内  
 (舊衆議院議長官舎)ニ移轉セリ

海軍省構内電話番号

司令長官	二二二二五
參謀長	二二二二六
首席參謀	二二二二七
參謀、副官	二二二二八
司令部附士官	二二二二〇
庶務室	二二二三一
(海上護衛總司令部)	二二二三二

○事務所撤去

高尾事務所ハ十一月二十二日之ヲ撤去セリ  
 呂號第四十一潜水艦艇裝具事務所ハ十一月二十五日之  
 ヲ撤去セリ



朝霜艦裝員事務所ハ十一月二十七日之ヲ撤去セリ

○正誤

十一月十五日附公報(部内限) 通牒欄一二二三頁下段  
中「經監經機密第十號」ハ「經監機密第十號」ノ誤

0556

(限 内 部)

# 海軍公報

(部内限) 第四千五百五十六號

昭和十八年十二月三日(金)

海軍大臣官房

## ○令 達

官房人第二七〇八號

本年十二月一日現在軍人海軍病院ノ職員タル者ハ特ニ發令セララルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ霧島海軍病院ノ各相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和十八年十二月一日

海軍大臣

官房需機密第五〇號

昭和十八年十二月一日

海軍大臣

各鎮守府司令長官  
各警備府司令長官 殿

海軍配當船ニ海軍軍人、軍屬便乗スル場  
合艦營需品供給ニ關スル件訓令

大東亞戰爭中海軍配當船タル油槽船ニ便乗スル海軍軍人、軍屬用トシテ艦營需品ノ供給ヲ要スルトキハ備品ハ貸與、一般用消耗品ハ消耗拂トシテ當該船舶ノ長ニ

之ヲ供給セシムベシ

之ガ詳細ニ關シテハ海軍省軍需局長ヲシテ通牒セシム

官房需第二四四號

當分ノ間豫備學生ニハ學校、航空隊、海兵團等ニ於テ基礎教育期間中ニ限リ新兵増加食ヲ給スルコトヲ得

昭和十八年十二月二日

海軍大臣

## ○通 牒

軍需機密第八〇四號

昭和十八年十二月一日

海軍省軍需局長

各海軍軍需部長  
各特設海軍軍需部長 殿

海軍配當船タル油槽船ニ海軍軍人、軍屬便  
乗スル場合艦營需品供給ニ關スル件通牒

官房需機密第五〇號訓令ニ依ル首題ノ件ニ關シテハ

海軍公報(部内限) 第四千五百五十六號

昭和十八年十二月三日

一三一五

0557

左記ニ依リ處理相成度

記

一 供給ノ範圍

備品ハ主トシテ食事器具類竝ニ代用壘トス  
一般用消耗品ハ兵備品諸用紙竝ニ直接食事ニ必要ナル物品ニ限ル

二 處理要領

(イ) 備品ヲ貸與スル場合

(一) 軍人、軍屬便乘期間中ニ限リ船長ノ請求領收票ニ依リ之ヲ貸與スルモノトス

(二) 貸與シタル物品中亡失シタルモノアリタル場合ハ船長ノ證明ニ依リ海軍兵備品會計規程第二十条ニ依リ處理スルモノトス

(ロ) 一般用消耗品ヲ供給スル場合

軍人、軍屬便乘期間中ニ限リ船長ノ請求領收票ニ依リ消耗拂トシテ之ヲ供給スルモノトス

○ 辭令

高千穂丸三等運轉士 木 村 壽

囑託(軍屬船員)ヲ命シ部内限判任官ヲ以テ待遇セ

ラル(海軍省兵備局)

(各通)

春日丸無線通信士 岩元 正則  
同 三等運轉士 工藤 榮一  
囑託(軍屬船員)ヲ命シ部内限判任官ヲ以テ待遇セラル(海軍省兵備局)

海軍主計少佐 折田 三郎

第百二海軍經理部アンボン支部ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス(海軍省兵備局長)

○ 雜款

○練習生採用試験問題ノ件照會  
本艦任務行動上聯合試験參加不能ニ付自今各種練習生採用試験問題一部宛直送相成度  
(海防艦對島)

○ 事務開始

第二〇三設營隊事務所ハ十一月七日横須賀市横須賀海軍施設部内ニ於テ事務ヲ開始セリ

大阪海軍運輸部下津出張所ハ十一月二十四日和歌山縣海草郡大崎村字六五六八ニ於テ事務ヲ開始セリ  
(丸善石油株式会社下津出張所事務一部)

0558

電話下津 一一八番

○事務所撤去

海防艦滿珠艦裝員事務所ハ十一月三十日之ヲ撤去セリ

○訂正

十一月十五日附公報(部内限) 辭令欄一二三一頁上段

十二行目「難波 治」ノ發令月日「十一月十五日」ハ

「十一月一日」ニ訂正

○取消

十一月一日附公報(部内限) 辭令欄一二七五頁下段十

三行目「青柳晴一」ノ辭令ハ取消

○正誤

十月十五日附公報(部内限) 辭令欄一〇七頁下段二

行目「海南海軍特務部」ハ「海南警備府」ノ誤

海軍公報(部内限) 第四千五百五十六號

昭和十八年十二月三日

一三七

0559

(限 内 部)

# 海軍公報

(部内限) 第四千五百五十七號

昭和十八年十二月四日(土)

海軍大臣官房

## ○ 令 達

官房需機密第五五五號  
昭和十八年十二月十日入團スベキ海軍現役兵ニ入團時  
交付スル被服物品ハ海軍給與令施行細則第八十四條第  
一項ノ規定ニ拘ラズ別表ニ依リ之ヲ交付スルモノトス  
昭和十八年十二月三日

海軍大臣

(別表添)

## ○ 通 牒

軍務一機密第九四一號

昭和十八年十二月一日

海軍省軍務局長  
海軍省人事局長

各 鎮 守 府 府  
各 警 備 艦 隊  
各 海軍練習聯合航空總隊  
參謀長殿

航空隊司令副長兼務ニ關スル件申進

副長缺員中ノ航空隊ハ司令副長ヲ兼務ノコトニ發令セ  
ラレ候處從來副長缺員中ハ先任將校ニテ之ガ職務ヲ遂  
行セラレタルモ幹部人員極度ニ逼迫ノ折柄飛行長以下  
ヲシテ各其ノ固有職務ニ專念セシメ司令自ラ内務其ノ  
他ノ副長職務ヲ遂行セシメラルル趣旨ニ有之候條了知  
相成度

## ○ 雜 款

○開隊  
追濱海軍航空隊知多分遣隊ハ十二月一日河和海軍航空  
隊トシテ開隊セリ

海軍公報(部内限) 第四千五百五十七號 昭和十八年十二月四日

一三一九

0560

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十八年十二月四日(土)  
海軍大臣官房

○令達

官房需機密第三〇九號ノ二  
昭和十八年官房需機密第三〇九號中左ノ通改正ス

昭和十八年十二月一日

海軍大臣

第一號中「出征スル艦船部隊ノ所轄長ハ進出地」ヲ「南方占領地域其ノ他ニ一時行動スル艦船部隊ノ所轄長ハ行動地」ニ改ム

第二號中「常駐ノ艦船部隊」ヲ「出征スル艦船部隊又ハ同地域ニ在ル艦船部隊(一時行動中ノモノヲ除ク)」ニ改ム

別表ヲ別表ノ如ク改ム

(別表添)

(参照) 昭和十八年官房需機密第三〇九號ハ出征艦船部隊ノ勤務者被服物品定數等ノ件ナリ(昭和十八年五月二十九日海軍公報(部内限))

官房需機密第五一號

昭和十六年官房需機密第九三二六號中左ノ通改正ス

昭和十八年十二月一日

海軍大臣

別表第一中陸戰帽、事業服及陸戰事業服ノ項ヲ削ル  
別表第二ヲ左ノ如ク改ム

別表第二(第二號ニヨリ海軍生徒ヨリ還付セシムベキ品種、數量)

品名	還付數量	品名	還付數量
軍衣袴	三	袴下	一
夏衣袴	四	夏袴下	五
軍帽	一	軍帽前章	二
襦袢	一	肩章	三
夏襦袢	五		

海軍公報 (部内限) 號外

0561

備	本表中左記ノ品種、數量ニ限リ候補生ニ採用セラレタルトキ還付セシメズ士官ニ任用セラルトキ之ヲ還付セシムルコトヲ得
軍衣袴	二
夏衣袴	二

別表第三中事業服ノ項ヲ削リ同表備考ヲ左ノ如ク改ム  
豫備員ニ任用セラレ直ニ召集セラルル者ハ本表ノ被服物品ハ之ヲ還付セシメズ

附則  
事業服及陸戰事業服ハ略衣袴トシテ、陸戰帽ハ略帽トシテ在庫品限リ混用スルコトヲ得

(参照) 昭和十六年官房機密第九三二六號ハ海軍生徒、豫備學生等ニ交付スル被服物品ノ定數其ノ他ノ件ナリ(機密會計法規七〇頁)

官房機密第五五二號

昭和十七年官房機密第一四一八號中左ノ通改正ス

昭和十八年十二月一日

海軍大臣

別表陸戰隊被服ノ部(イ)第二種軍裝著用期間ノ備考ニ左ノ一號ヲ加フ

三 本表中下士官兵褐青色夏衣袴ニハ貸與品タル略衣袴ヲ、褐青色戰鬪帽ニハ貸與品タル略帽ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

同表著色事業服(帽共)ノ部ヲ削ル

同表整備作業服(帽共)ノ部整備作業服(夏用)及整備作業服(夏用)ノ項ヲ削リ

同 (冬用) 一個

整備作業帽 (冬用) 一個

同 (冬用) 二個

整備作業服 (冬用) 二個

ヲ加フ  
備考 夏用ニハ貸與品タル略衣袴及略帽ヲ以テ充ツルモノトス

附則

著色事業服上:衣袴及整備作業服(夏用)ハ略衣袴トシテ、著色作業帽及整備作業帽(夏用)ハ略帽トシテ在庫品限リ混用スルコトヲ得

(参照) 昭和十七年官房機密第一四一八號ハ艦船部隊及特設各職ニ勤務スル軍人ニ特種被服物品貸與ノ件ナリ  
(機密會計法規二二八ノ二〇頁)

官房需第二四五號

昭和十年官房第四三一號、昭和十七年官房第九七一號及同第一四六二號ハ昭和十八年十一月三十日限り之ヲ廢止ス

昭和十八年十二月一日

海軍大臣

- (参照) 一 昭和十年官房第四三一號ハ自動車運轉ニ從事スル下士官兵ノ軍衣袴等ノ交換期限ノ件ナリ(會計法規二卷二七〇頁)
- 二 昭和十七年官房第九七一號ハ下士官兵ニ交付スル臂章ノ交換期限ヲ無期品トスル件ナリ(昭和十七年二月二十一日海軍公報)
- 三 昭和十七年官房第一四六二號ハ下士官、兵、豫備練習生及豫備補習生等ノ被服物品定數ノ特例ニ關スル件ナリ(昭和十七年三月十八日海軍公報(部内限))

○通牒

軍需機密表第一三七號

昭和十八年十二月一日

海軍省軍需局長  
海軍省經理局長

海軍公報(部内限) 號外

關係各廳長殿

生徒被服還付取立ニ關スル件通牒  
昭和十八年官房機密第五五一號ヲ以テ首題ニ關シ改正相成趣旨ハ軍衣袴、夏衣袴ニ限り候補生タル間ハ取立未済ノ形式ニ依リ之ヲ使用セシメ士官ニ任用後ハ制式ヲ異ニスルヲ以テ之等ハ凡テ還付セシメントスルモノニ有之其ノ取扱方ニ關シテハ別紙ニ依リ處理相成度

(別表、別紙添)

0563



(別表)

(昭和十八年十二月四日海軍公報(部内限)號外)

品名	區別	分
雨衣		一
襦袢		一
夏襦袢		一
袴		三
夏袴		三
夏袴下		一
脚絆		一
帶皮		一
半靴	機關兵曹(金工業) 掌工兵 其ノ他ノ者	二 三
靴下		八
短劍		
劍帶		
蒲團		
衣		一
臂章		三
品名	兵	
區別	(飛行操科練習生又ハ飛行練習生タル兵及軍樂兵ヲ除ク)	
分		一
品名	飛行操科練習生又ハ飛行練習生タル兵	
區別		
分		一
品名	軍樂兵	
區別		
分		一
品名	軍樂兵曹	
區別		
分		一

0564

(別表)

考 備	半 靴	襟 飾	脚 絆	軍 帽	雨 衣	外 套	軍 袴	品 名		品 量
								新 品	古 品	
一 本表ノ古品ナキトキ又ハ在庫品ノ状況ニ依リ必要アルトキハ新品ヲ交付スルコトヲ得 二 兵ニシテ見習尉官又ハ豫備員候補者ニ採用セラレタルトキハ本表ノ被服物品ハ之ヲ還付 セシム 三 前號以外ノ兵ニ本表ノ外更ニ被服物品ノ交付ヲ要スルトキハ海軍給與令施行細則第八表 ニ依ルモノトス	一	一	一	一	一	一	一			
	軍 帽 前 章	衣 囊	蒲 團 覆	袴 下	中 着 襟	襦 袴	靴 下		新 品	古 品
	一						三			

(昭和十八年十二月四日海軍公報(部内限))

0565

# 海軍公報 (部内限) 號外

昭和十八年十二月四日(土)  
海軍大臣官房

## ○郵便物發送先通知 (宛先ハ下段ノ通記載ノコト)

### ○艦船ノ部

- 一 飛鷹、秋月
- 一 伊二十九潛、黄河丸
- 陸上ノ部

横須賀局氣付 飛鷹、秋月  
佐世保局氣付 伊二十九潛、黄河丸

- 一 第五五二航空隊
- 一 第五五一航空隊
- 一 第一〇二防空隊
- 一 第一〇三防空隊
- 一 第一〇四防空隊
- 一 第一〇五防空隊
- 一 第一〇六防空隊

横須賀局氣付「ウ八六ウ貳〇四」  
佐世保局氣付「イ貳參イ七貳」  
館山砲術學校内「セ壹〇貳」  
同 「セ壹〇參」  
同 「セ壹〇四」  
同 「セ壹〇五」  
同 「セ壹〇六」

司令、隊機關長、隊軍醫長宛  
隊主計長宛

若葉  
初春

尙各艦給與ハ各艦別掌理中ニ付キ給與關係書類ハ  
各艦主計長宛送付サレ度

隊、司令宛  
軍醫長宛

時雨  
白露

(第二十一驅逐隊)

(限内)

海軍公報 (部内限) 號外

九七

0566

主計長宛

五月雨

尙各艦ニ必要ノ分ハ寫各艦宛直送ヲ得度

(第二十七驅逐隊)

隊、司令、主計長宛

第二十二號驅潛艇

軍醫長、機關長宛

第二十四號驅潛艇

(第二十三驅潛隊)

0567

(限 内 部)

# 海軍公報

(部内限) 第四千五百五十八號

昭和十八年十二月六日(月)

## 海軍大臣官房

### ○告示

海軍省告示第一號ノ九  
第四南遣艦隊ニ艦隊軍法會議ヲ置ク

昭和十八年十一月三十日

海軍大臣

### ○令 達

官房人機密第九二二號

本年十二月一日現在左記上欄ノ職ニ在ル者ハ特ニ發令  
セラルルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ各下欄ノ職名  
ニ補セラレタル義ト心得ベシ

昭和十八年十二月一日

海軍大臣

記

海軍警備隊 海兵團 防備隊 海軍特別陸戰隊 特別根據地隊 特設警備隊 特設防備隊 機關長	海軍警備隊 海兵團 防備隊 海軍特別陸戰隊 特別根據地隊 特設警備隊 特設防備隊 內務長	潜水艦基地隊 特設潜水艦隊 工作長	潜水艦基地隊 特設潜水艦隊 內務長	海軍航空隊 特設海軍航空隊 工業部指揮官 官タル兵科分隊長 整備長(兼) 教官	海軍航空隊 特設海軍航空隊 官附(兼) 教官 修補長兼分隊長	巡洋艦 (球磨型) (長良型) (川内型) 水雷長 兼分隊長	巡洋艦 (球磨型) (長良型) (川内型) 內務長 兼水雷長 兼分隊長
---	---	-------------------------	-------------------------	--	--	---	---

海軍公報(部内限) 第四千五百五十八號

昭和十八年十二月六日

一三二一

0568

神威  
能登呂  
駒橋

運用長兼分隊長

神威  
能登呂  
駒橋

内務長兼分隊長

特務艦

知床型、隠  
戸型、室戸、  
足摺型、早  
崎型、風早  
野崎、伊良  
湖宮、大瀬

運用長

特務艦

知床型、隠  
戸型、室戸、  
足摺型、早  
崎型、風早  
野崎、伊良  
湖宮、大瀬

内務長

○通牒

官房備機密第一四五號ノ二四

昭和十八年十二月五日

海軍省 副官

各廳長 殿

郵便物ニ關スル件通牒

官房備機密第一四五號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

附錄部隊區別符表(其ノ四)中ニ「第一〇二防空隊

七壹〇貳」「第一〇三防空隊 七壹〇參」「第一〇四防

空隊 七壹〇四」「第一〇五防空隊 七壹〇五」「第一〇

六防空隊 七壹〇六」「第四南遣艦隊司令部 七壹〇七」ヲ加フ

軍務三機密第一四三號

昭和十八年十二月二日

海軍 軍務局長  
海軍艦政本部總務部長

各艦隊參謀長  
各鎮守府警備府參謀長  
各工廠作業廳長 殿

艦船検査修理ニ關スル件申進

昭和十八年内令第四百四十五號ヲ以テ戰時艦船大修理實施規定ヲ定メラレ一部實施セラレツアル處艦隊艦船ハ特別ノモノヲ除キ殆下其ノ實施期間ヲ得ラレザル現狀ニシテ斯ノ如ク推移セバ不慮ノ事故ノ故障等生起ノ惧ナシトセザルヲ以テ艦船側ニ於テハ保安上特ニ重要ナル別表ノ箇所ニ就キ常ニ罐管復水器管等ニ對スル下同様ノ注意ヲ以テ之ヲ検査整備スルト共ニ工作應ノ協力ヲ要スルモノニ在リテハ入渠、修理等短期間在泊ノ機會ト雖モ全幅之ヲ利用シ關係工作應等ニ於テハ積極的ニ艦船側ニ協力シテ重點的ニ一事項ノミニテモ逐次検査、修理ヲ實施シ以テ整備上遺憾ナカラシムル様

0569

可然取計相成度

(別表添)

艦本機密第六號ノ一六五一九

昭和十八年十一月三十日

海軍艦政本部長

關係各廳長殿

磁氣羅針儀用磁桿引換ノ件照會

各艦船部隊學校ニ供用中ノ各種磁氣羅針儀用修正磁桿  
(KS磁桿)ハ時機ヲ得次第最寄工廠ニ於テNK S磁  
桿、ND磁桿、又ハMK磁桿ト引換相成度尙此ノ際餘  
分ノ磁桿ハ最寄軍需部ニ還納セラレ度

○ 辭 令

八海山丸無線通信局長 菊 地 登

囑託(部内限奏任官待遇)ヲ命シ報酬年額千九百五

拾六圓ヲ給ス(昭和十八年海軍省)

まがね丸無線通信局長 小形 武彦

囑託(部内限奏任官待遇)ヲ命シ報酬年額千六百五

拾六圓ヲ給ス(昭和十八年)

國光丸機關長 吉邑 梅一

囑託(部内限奏任官待遇)ヲ命シ報酬年額千參百九

拾貳圓ヲ給ス(昭和十八年)

鹿島丸機關長 中 磯 熊

囑託(部内限奏任官待遇)ヲ命シ報酬年額千四百八

拾八圓ヲ給ス

光島丸無線通信局長 西野 秀夫

囑託(部内限奏任官待遇)ヲ命シ報酬年額貳千拾六

圓ヲ給ス

第三壽丸機關長 鮫島 友八

囑託(部内限奏任官待遇)ヲ命シ報酬年額千八百參

拾六圓ヲ給ス

豐津丸無線通信局長 三 浦 聖

囑託(部内限奏任官待遇)ヲ命シ報酬年額千五百九

拾六圓ヲ給ス(以上昭和十八年)

聖川丸無線通信局長 稻葉 覺三

囑託(部内限奏任官待遇)ヲ命シ報酬年額貳千百拾

貳圓ヲ給ス(昭和十八年)

まがね丸無線通信局長 小形 武彦

囑託ヲ解ク(昭和十八年)

加部 勇藏

海軍公報(部内限)第四千五百五十八號

昭和十八年十二月六日

一三三三

0570

(各通)

中山 金治  
福島 義一

囑託(軍屬船員)ヲ命シ部内限奏任官待遇トス(三十四日同)

廣田 章

囑託(軍屬船員)ヲ命シ部内限奏任官待遇トス(三十五日同)

荒木 圭治

徴用中年額參千五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(三十九日同)

横道 智

囑託(軍屬船員)ヲ命シ部内限奏任官待遇トス(三十九日同)

岡本 善夫

海南警備府附ヲ命ス(三十四日海軍省)

松野 繁志

同

磯 平八

新竹州警部 宮内 龜吉

高雄州警部 植松 繁次

臺北州警部補 根本 力

長友 徳近

新竹州警部補 長非 三郎

臺中州警部補 宮崎 武人

臺南州警部補 兼島 方道

同 小平 章治

高雄州警部補 佐々木重郎三

臺東廳警部補 深港 善吉

海南警備府附ヲ命ス(三十四日同)

松本 徳明

海軍省南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限勅任官待遇トス(三十五日同)

長谷川 正

(各通) 貳千百拾圓

林 喜蘭

千八百貳拾圓

林 秀梯

ニューギニア政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

神渡 音八郎

但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(三十四日同)

南西方面海軍民政政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

桑原 三郎

0571



但シ報酬年額千八百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

第一南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス  
但シ報酬年額千六百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上註同)

鳥居 忠之

(各通)

海軍省南方政務部事務囑託ヲ解キニューギニア民政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス(報酬如故)

線路工員 山野 芳太郎

第四艦隊司令部附ヲ免シ横須賀鎮守府附ヲ命ス

特設海軍燃料廠補給部兼第一海軍燃料廠第百二海軍燃料廠役員 萩原 良助

兼第百一海軍燃料廠、第百二海軍燃料廠ノ配屬ヲ解ク(以上註同)

海軍大將子爵 加藤 隆義

吳方面海軍工作廳等查察官ヲ命ス

海軍中將 澁谷 隆太郎

同 保科 善四郎

海軍少將 安場 保雄

(各通)

同 海軍主計少將 足立 助藏

同 海軍大佐 堀内 茂忠

同 同 山本 善雄

同 海軍中佐 今田 乾吉

同 同 三木 榮助

同 同 市吉 聖美

同 同 目黒 孝清

同 同 加藤 武夫

同 海軍少佐 武市 義雄

同 同 古田 豊作

同 海軍主計中佐 中野 英夫

同 海軍技術大佐 佐々川 清

同 海軍技師 本村 由三

同 同 角田 治郎

吳方面海軍工作廳等查察官隨員ヲ命ス

海軍少佐 松添 正造

海軍理事官 平田 豊年

吳方面海軍工作廳等查察官附ヲ命ス(註同)

吳海軍施設部役員 古川 健治

第四海軍施設部ニ配屬ス(註同)

海軍公報(部内限) 第四千五百五十八號 昭和十八年十二月六日

三三五

0572

海軍省事務ヲ囑託ス(対明同) 通信院技師 諸澤 忠治

第二課勤務ヲ命ス(対明海軍省軍務局) 海軍少佐 橋 秀雄

第二課勤務ヲ命ス(対明同) 海軍中佐 中山 定義

富山海軍監督官事務所及受持区域内ニ在ル艦裝員事務所ニ要スル經費支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス 海軍大佐 藤田 精一

資金前渡官吏ヲ免ス(以上対明支出官 海軍省經理局長) 海軍主計大佐 居倉 直記

玉野海軍監督官事務所及受持区域内ニ在ル艦裝員事務所ニ要スル經費支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス 海軍技術大佐 加藤 恭亮

資金前渡官吏ヲ免ス(以上対明同) 海軍主計少佐 沼田 理二

第二課勤務ヲ命ス(対明海軍省經理局)

○ 雜 款

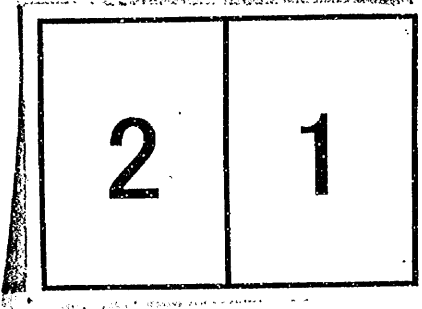
○事務引繼 富山海軍監督官事務所資金前渡官吏十一月二十七日事務引繼ヲ了ス 前任 海軍主計大佐 居倉 直記 後任 海軍大佐 藤田 精一

○轉勤者旅行先 當隊へ入隊者ハ日豊本線南宮崎驛下車宮崎鐵道線ニ乗換へ本郷驛下車(南宮崎驛ヨリ約三軒) (宮崎海軍航空隊)

○郵便物發送ニ關スル件照會 本艇類似ノ艦艇名(第二十一驅潛隊、第二十一驅潛特務艇、第二十一驅逐隊、第二十一號掃海艇)多數有之本艇宛郵便物中混同遲達及不達等甚シク事務遂行上困却致居候條發送ニ當リテハ表記ニ充分留意相成度 追テ發送先左ノ通ニ有之候 佐世保局氣付 第四十一海軍軍用郵便所第二派出所 第二十一號驅潛艇

○正誤 十一月二十七日附公報(部内限)一二八八頁下段倉科和夫ノ辭令文中部内限判任官待遇トアルハ部内限奏任官待遇ノ誤

# 分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3版以上のため
文書等名	船体義装品
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

検査修理箇所	検査要領
(イ) 水上艦船 一、彈火藥庫注水装置 二、應急注排水装置 三、通風防水弁 四、彈火藥庫ガス抜 五、操舵装置 六、防水扉及蓋 七、泡沫消火装置 (ロ) 潜水艦	弁開閉ノ難易、腐蝕、衰朽ノ状況ヲ検査シ要スレバ弁ノ開放検査ヲ行フ 諸弁機構部ニ就キ腐蝕、衰朽ノ状況ヲ検査ス 特ニ露天部裝備防水弁ハ容易ニ開閉シ得ル如クス 作動部ノ状況ヲ検査ス テレモータノ主要機構部及油壓パツキングヲ開放検査ス 防水部緊締部其ノ他ニ就キ腐蝕衰朽ノ状況ヲ検査ス 腐蝕、衰朽ノ状況ヲ検査シ通水試験ヲ行フ 漏油ノ有無ヲ検査ス 門扉ヲ外シ螺番ローラ軌條及其ノ附近ノ腐蝕ノ有無等ヲ検査ス 弁座腐蝕、ゴムノ異状、閉閉装置全體腐蝕、ピン割栓、ナツト等脱落ノ有無、注油装置ノ状態、ナツト戻リ止状態等ノ良否ヲ検査ス 右ニ準ズ 右ニ準ズ
検査修理箇所 一、外殼重油タンク 二、門扉 三、キングストン弁及ヘ ント弁 四、罐口弁 五、舷外弁	規定ノ水壓試験ヲ行ヒ状態ノ良否ヲ検査ス 場合ニ依リ磁力應用ノ測厚器ニテ腐蝕状況ヲ検査ス 低壓ブロー分配弁ヨリ内殼板ニ至ル間等ニハ特ニ意ヲ注グコト 諸タンク外板肋骨等ノ腐蝕状況 特ニ手入不可能ノ部分、熱、汚水等ニテ腐蝕シ易キ部分ノ検査ニ重キヲ置クコト

0574  
0575

検査修理箇所	検査要領
(ハ) 其ノ他 検査修理箇所 一、弁、弁柱及空氣管系 二、減壓弁、安全弁 三、空氣壓縮ポンプ 四、氣蓄器 五、發射管 二機 一、タービン主機械 (イ) タービン翼 (ロ) 減速齒車 二、内火機械 二十二號内火機械及發 電機、發動シリンダ入 子 三、主補蒸氣管系 四、海水管系 五、艦底弁 六、張出軸受 七、其ノ他 三電 一、發電機及電動機 二、發電機原動機	漏氣腐蝕衰朽ノ有無及状況ヲ検査ス 作動ノ良否ヲ検査ス 一般作動状況ヲ検査シ要スレバ開放検査ヲ行フ潜水艦ニ在リテハ特ニ冷却水管系ノ腐蝕衰朽状況ヲ検査ス 潜水艦ハ状況ヲ検査シ要スレバ内部手入検査ヲ行フ 潜水艦ハ入渠ノ場合前扉及管體前端部ニ就キ其ノ腐蝕衰朽状況ヲ検査ス 翼及翼抑特ニ縁肉部ヲ検査シ點蝕、潰蝕、打疵等ノ有無ヲ調査ス 窺穴等ヨリ検査シ齒車缺損ノ有無及齒當リノ良否ヲ調査ス 代表的ニ發動シリンダ入子ノ検査ヲ行ヒ腐蝕進行ノ状況ヲ調査ス 蒸氣管系ドレン溜溜ノ俱アル箇所ニ就キ代表的ニ取外シ検査ヲ行ヒ内部腐蝕ノ状況ヲ調査ス 鋼管使用ノ海水管及弁ハ代表的ニ取外シノ上内部腐蝕ノ状況ヲ調査ス 入渠等ノ機會ニ於テ次ノ検査ヲ行フ (イ) シルシ青銅製弁ニ對シテハ内部潰蝕ノ状況ヲ検査ス (ロ) 鐵系材料使用ノ弁ニ對シテハ内部腐蝕ノ状況ヲ検査ス 潜水検査ヲ行ヒ張出軸受遊隙ヲ計測シ其ノ増加ノ状況ヲ調査ス 來歴ニ徴シ特ニ検査ノ要アリト認ムル箇所ニ就キ其ノ現状ヲ調査ス 絶縁抵抗空隙ヲ検査ス 整流子及刷子磨耗状況ヲ検査ス 軸受遊隙及磨耗状況ヲ検査ス (イ) (ハ) (ロ) (イ) ビストン式 蒸氣シリンダノ遊隙ヲ検査ス 滑弁座パツキン箱ノ磨耗状況ヲ検査ス 蒸氣シリンダ内ニテビストンリング切目ノ間隙ヲ検査ス ビストン滑弁各部摺面ノ状況ヲ検査ス (五)(四)(三)(二)(一) ビストン棒、接合棒、クランク主軸受等ノピン及軸受裏金ノ磨耗狀況ヲ検査ス (六) 附屬裝置ノ運動部ヲ検査ス (ロ) タービン式 (一) タービン車室、減速車室 開放検査ヲ行ヒ軸承ノ下リ移動、龜裂缺損ノ有無 軸承裏金磨耗ノ状況等ヲ検査ス



九、船體	<p>(四) 在船體一、分船身ヨリ内装材ニ至ル出船ニ至ルシテハコト諸タンク外板肋骨等ノ腐蝕狀況特ニ手入不可能ノ部分、熱、汚水等ニテ腐蝕シ易キ部分ノ検査ニ重キヲ置クコト</p>
<p>(ハ) 其ノ他 検査修理箇所</p>	<p>漏氣腐蝕衰朽ノ有無及狀況ヲ検査 作動ノ良否ヲ検査 一般作動狀況ヲ検査シ要スレバ開放検査ヲ行フ潜水艦ニ在リテハ特ニ冷却水管系ノ腐蝕衰朽狀況ヲ検査 潜水艦ハ狀況ヲ検査スレバ内部手入検査ヲ行フ 潜水艦ハ入渠ノ場合前扉及管體前部ニ就キ其ノ腐蝕衰朽狀況ヲ検査</p>
二機	開
<p>検査箇所</p>	<p>翼及翼抑特ニ縁内部ヲ検査シ點蝕、潰蝕、打疵等ノ有無ヲ調査ス 規穴等ヨリ検査シ齒車缺損ノ有無及齒當リノ良否ヲ調査ス 代表的ニ發動シリンダ入りノ検査ヲ行ヒ腐蝕進行ノ狀況ヲ調査ス</p>
<p>一、タービン主機 (イ) タービン翼 (ロ) 減速齒車 二、内火機械 二十二號内火機械及發電機、發動シリンダ入り 三、主補蒸氣管系 四、海水管系 五、艦底弁 六、張出軸受 七、其ノ他</p>	<p>蒸氣管系下レン滞留ノ惧アル箇所ニ就キ代表的ニ取外シ検査ヲ行ヒ内部腐蝕ノ狀況ヲ調査ス 鋼管使用ノ海水管及弁ハ代表的ニ取外シノ上内部腐蝕ノ狀況ヲ調査ス 入渠等ノ機會ニ於テ次ノ検査ヲ行フ イ、シリンダ青銅製弁ニ對シテハ内部潰蝕ノ狀況ヲ検査ス ロ、鐵系材料使用ノ弁ニ對シテハ内部腐蝕ノ狀況ヲ検査ス 潜水検査ヲ行ヒ張出軸受遊隙ヲ計測シ其ノ増加ノ狀況ヲ調査ス 來歴ニ徴シ特ニ検査ノ要アリト認ムル箇所ニ就キ其ノ現狀ヲ調査ス</p>
三電	機
<p>検査修理箇所</p>	<p>絶縁抵抗空隙ヲ検査ス 整流子及刷子磨耗狀況ヲ検査ス 軸受遊隙及磨耗狀況ヲ検査ス ビストン式 (イ) (ハ) (ロ) (イ) 蒸氣シリンダノ遊隙ヲ検査ス 滑弁座パツキン箱ノ磨耗狀況ヲ検査ス 蒸氣シリンダ内ニテビストンリング切目ノ間隙ヲ検査ス ビストン滑弁各部摺面ノ狀況ヲ検査ス ビストン棒、接合棒、クランク主軸受等ノピン及軸受裏金ノ磨耗狀況ヲ検査ス (六) 附屬裝置ノ運動部ヲ検査ス (ロ) タービン式 (一) タービン車室、減速車室 開放検査ヲ行ヒ軸承ノ下リ移動、龜裂缺損ノ有無 軸承裏金磨耗ノ狀況等ヲ検査ス (二) タービン軸車、翼車 外觀検査ヲ行ヒ翼列及翼尖遊隙ヲ検査ス (三) タービン翼、縁切 外觀及叩音検査ヲ行ヒ磨蝕、缺損、弛緩ノ有無及程度ヲ検査ス (四) 減速齒車 磨耗ノ程度、龜裂、缺損ノ有無當リ具合ヲ検査ス (五) 附屬諸裝置 復水器漏洩試験(管水壓試驗ヲ含ム) 其ノ他運動部ノ検査ヲ行フ (ハ) 内火式 (一) 發動シリンダ、發動シリンダ蓋 開放ノ上重要部遊隙ヲ檢測シ掃除手入ノ上外觀検査ヲ行ヒシリンダ蓋及附屬諸器ノ腐蝕磨耗、變形ノ狀況等ヲ検査ス (二) ビストン 分解検査ヲ行ヒビストン符同平行部及ビストンリングノ磨耗變形ノ程度ヲ檢測ス (三) ビストン棒 外觀検査ヲ行ヒ耳軸、裏金等ノ磨耗ノ狀況ヲ検査ス (四) クランク軸、主軸受 クランク軸ノ外觀検査ヲ行ヒ(要スレバ中心検査ヲ行フ) クランクピン及軸承裏金ノ磨耗狀況ヲ検査ス クランク裏金締付用ボルトハ特ニ入念ニ寸法検査ヲ行ヒ原尺ト相違スルモノニ關シテハ工廠ト協議シ適切ナル處置ヲ執ルモノトス (五) 弁、動弁裝置 各種器ノ掃除手入ノ上外觀検査ヲ行ヒ動弁裝置ノ外觀並ニ軸系中心カムコロ間隙並ニ磨耗ノ程度及傳導齒車ノ外觀並ニ磨耗ノ程度等ヲ檢測ス (六) 其ノ他必要ナル事項及附屬清光管ノ検査ヲ行フ</p>

# 海軍公報(部内限)號外

昭和十八年十二月六日(月)  
海軍大臣官房

○ 雜 款

忠靈塔建設資金醸出金明細表

一金六拾五萬七千六拾壹圓六拾六錢也

内 譯

應 名	金額	應 名	金額	應 名	金額	應 名	金額
海軍大臣官房	一〇四三〇	同 醫務局	二二五三〇	同 技術研究所	七三九〇六〇	同 潜水學校	二〇〇四三〇
海軍省電信課	一五〇六〇	同 經理局	九二五三九〇	海軍大學校	四三五六〇	同 工機學校	三二五三〇〇
同 軍務局	一六〇〇〇	同 法務局	九〇二〇〇	同 軍醫學校	六七〇六九〇	同 航海學校	一六八七六〇
同 兵備局	三三三三〇	海軍艦政本部	五五二二五〇	同 經理學校	一四三三三〇	同 通信學校	三六四四五〇
同 人事局 (含武功調査)	三五六六〇	同 航空本部	一四九〇一七〇	同 機雷學校	一八四五〇一〇	同 工作學校	一四五四〇三〇
同 教育局	一八七〇〇	同 施設本部	一一〇五〇〇	同 機關學校	一〇五三七〇〇	同 兵學校	三八五八七〇
同 軍需局	三三六〇〇	同 水路部	三九五五六〇	同 水雷學校	一三五五三六〇	館山海軍砲術學校	八八〇三〇〇

海軍公報(部内限)號外

0576



大井	龍田	青葉	摩耶	鳥海	那智	愛宕	妙高	高雄	武藏	大和	霧島	榛名	金剛	長門
四七九九〇	三一九五〇	五五四一〇	七四八四〇	八三三三〇	九六三三〇	一〇三二四九〇	九〇七六〇	七六三三〇	一八四八三〇	三三六六八〇	二〇七九三〇	二〇八五〇〇	二二九一七〇	一五九八五〇
沖鷹	雲鷹	大鷹	飛鷹	利根	鳳翔	阿賀野	夕張	那珂	神通	川内	阿武隈	熊野	長良	多摩
三六四三〇	五三三五〇	四九三六〇	二八二七〇	八七三〇〇	四〇四一七〇	五八三〇〇	三六四〇九〇	三二八六〇	四〇六〇三〇	四七四五〇	五二五五四〇	七九八三三〇	四二八七〇	四八〇三七〇
勢多	鳥羽	安宅	若鷹	初鷹	津輕	嚴島	長鯨	迅鯨	日進	秋津洲	千代田	能登呂	龍鳳	準鷹
七六八〇〇	六三八〇	一三〇三九〇	二〇一六〇〇	二〇三五〇	三九四三三〇	二六〇二二〇	一〇六七三〇	四五五三七〇	五四三九四〇	三七八九〇	七八三四〇	一九四〇一〇	五三四九〇	三三四四〇〇
秋雲	澤風	帆風	沖風	香椎	鹿島	香取	比叡	須磨	多多良	宇治	橋立	保津	比良	堅田
一八九四九〇	一四七九〇	一五五五六〇	一四八四五〇	七三九〇	七三三九〇	七五三三〇	一一九三三〇	八七四八〇	八八九〇	一九三三四〇	一三三三三〇	七六五七〇	七四七三〇	七五七〇

0578



萩	不	霞	夕	白	築	瑞	翔	瑞	三	旗	朝	野	夕	波
風	知		霧	雲	紫	鳳	鶴	鶴	日	風	風	風	風	風
一七三四〇	一〇三三〇	一〇五六〇	五五二七〇	一七三六〇	四四七三〇	八二七四〇	一一〇九四〇	一九三四五〇	四九〇〇〇	一五七七〇	二二三八〇	一五〇三三〇	一四三三八〇	一三五五〇
石	千	鳩	鷺	雁	鈴	鴻	石	國	蓮	梅	栗	出	矢	風
廊	鳥				谷		垣	後				雲	雲	雲
一八三六〇	一三三八〇	一三七二八〇	一三〇八五〇	一七九七〇	八六三三〇	一一三〇〇	一五五三三〇	一三七八〇〇	一三六七〇	一三三九〇	一三三四三〇	九四〇三六〇	五〇九七三〇	六五八六〇
間	室	鳴	早	隱	尻	知	攝	神	鶴	白	朝	山	明	磬
宮	戶	戶	鞆	戶	矢	床	津	風	見	沙	湖	雲	石	手
四二五九〇	三〇二四〇	一八九三七〇	一七四六七〇	一八九八三〇	一六四六九〇	一七三〇八〇	三五〇八〇	一七〇七〇〇	一六四四七〇	一八二六〇	三六九六〇	三〇四八六〇	三三三七三〇	四一九三七〇
山	千	光	木	長	北	新	富	友	飛	矢	大	大	伊	宗
東	歲	島	會	沙	京	京	津		島	風	泊	瀬	良	谷
丸	丸	丸	丸	丸	丸	丸	丸	鶴					湖	
一三〇五〇	一四二六〇	一四五三五〇	五五二六〇	一三六七〇	一一九九三〇	一一六五六〇	一三三三五〇	八五九五〇	七三四五〇	一〇八七〇	一〇八九三〇	一三〇九〇	三九七八〇	三六六三〇

0579

明 天 丸	吉 田 丸	香 港 丸	勝 泳 丸	明 石 丸	西 貢 丸	朝 日 丸	長 運 丸	白 海 丸	相 良 丸	雄 勝 丸	康 良 丸	岩 代 丸	藤 影 丸	乾 陽 丸
一七五六〇	一四五五七〇	一〇九九四〇	一四九〇八〇	四九一六〇	三五〇五〇	一四三五九〇	一三三九五〇	一四三三五〇	三三〇三五〇	九一八〇	七七〇	四三八七〇	三三六〇	六〇〇〇
日 立 丸	平 安 丸	永 興 丸	慶 南 丸	三 江 丸	靜 海 丸	滿 珠 丸	壽 山 丸	愛 國 丸	八 海 丸	旭 東 丸	新 興 丸	聖 川 丸	大 東 丸	慶 洋 丸
四四〇〇	八七五八〇	一三六九六〇	一九四三五〇	三〇七八〇	一四八八〇	八六六〇	一四八八〇	三五三九〇〇	四八三七〇	一九三七〇〇	一八三三五〇	一二五七三〇	一六七六四〇	一五三九〇〇
日 海 丸	神 風 丸	高 砂 丸	山 鳩 丸	尾 上 丸	山 西 丸	拓 南 丸	神 洋 丸	淺 香 丸	嚴 島 丸	浦 上 丸	日 榮 丸	乾 祥 丸	興 業 丸	淀 川 丸
一三〇三〇	三三四一九〇	一三〇五三〇	三五二五六〇	五七五〇	三六〇〇	九五六〇	二二九九〇	三〇三八六〇	三三〇	五六九四〇	六九八六〇	一七九三〇	七三六〇	四四〇一〇
乾 隆 丸	東 寧 丸	海 平 丸	永 福 丸	五 洲 丸	衣 笠 丸	靖 國 丸	興 安 丸	山 陽 丸	照 德 丸	日 向 丸	香 取 丸	建 川 丸	長 田 丸	磐 谷 丸
三三三四〇	四三一九〇	一八一三〇	一五〇五六	一六六一四〇	三三〇	九三七八四〇	四九三三〇	三〇七九〇	一五〇三三〇	一四一三〇	一〇九七五〇	三七四〇	三六〇	三七〇五〇

長興丸	御室山丸	第二號長安丸	高雄 (含梅谷部隊)
四七〇〇	三三〇〇	一三三四〇	一、七三六〇
河北丸	那岐山丸	第十八御影丸	谷田部同
一五七三〇	三三四〇	四六五六〇	六六三〇
粟田丸	龍田川丸	第十七日之出丸	相模野同
四六二〇〇	三三三〇	一八六九〇	一、八四〇三〇
笠置丸	第二日正丸	第三十六共同丸	名古屋同
三五〇一五〇	六三三〇	一九七〇三〇	六四七〇〇
興津丸	金耶摩山丸	第十二號八龍丸	大村同
三五九〇	五〇四〇	三四二〇	七、七五四〇
日本丸	第五清壽丸	りあでぶやねろ丸	大津同
六七四〇	八二四〇	三九四〇	三〇三九〇
日枝丸	さんとす丸	第二號長江丸	鹿島同
一、七〇六六〇	八四一九〇	一〇四三七〇	六、六四一〇
牟婁丸	第一京仁丸	霞浦海軍航空隊	大分同
一〇三五〇〇	一七〇八〇	一、七四三三〇	一、二五五〇
第三壽丸	第二東洋丸	三澤同	大井同
一、九五六〇	三三〇	七、三五〇	一、五三四七五〇
富士川丸	第二小倉丸	大湊同	横濱同
六八八〇	二、五六〇	三、七七〇	六〇八四〇〇
名古屋丸	あけぼの丸	千歳同	筑波同
三、七八五〇	六三〇三〇	一、四〇二〇	七、六三三〇
秋葉山丸	第二號松榮丸	父島同	岩國同
三三〇	九、五六〇	二、四六八三〇	一、三、四六、四七〇
御嶽山丸	さんらもん丸	鎮海同	鈴鹿同
三、七三〇	三、三三〇	三、七〇五〇	一、七〇三、四〇〇
日本海丸	第二號天洋丸	小松島同	館山同
一、二四三〇	五、六七〇	五、八九七〇	一、三、五七、五七〇
長壽山丸	第二號新興丸	博多同	百里原同
一、三九七〇	二、五五五〇	六、三九五〇	七、三三三〇

海軍公報 (部内限) 號外

土浦 同	三〇九四八〇	第七〇三同	七九三〇七	第二十三航空戰隊	八九四〇〇	大阪 同	二七四五〇
追濱 同	一五三九三〇	第七〇五同	七四七〇〇	第十一航空艦隊	五〇八三〇	上海 同	四三七九〇
舞鶴 同	三三五三四〇	第七〇七同	六四三七〇〇	上海海軍航路部	四六二七〇	臺北 同	一〇七四九〇
三重 同	三〇〇〇三〇	第七五五同	一〇三四三三〇	小樽 在勤海軍 武官府	三三二五〇	伏木 同	二五三五〇
宇佐 同	一〇九五七〇	第八〇二同	七四〇七〇〇	函館 同	三五四一〇	南京 同	六八五八〇
築城 同	五五七〇〇	第八五一同	五三〇六七〇	北京 同	三三一九〇	長崎 同	三四三五〇
北浦 同	六四九三〇	第九〇二同	元二〇九〇	南洋群島同	三五八〇〇	別府海軍病院	三三七七〇
徳島 同	四八〇六〇	第九三二同	一〇六三〇〇	釧路 同	三三五四〇	野比 同	三三〇八〇
佐伯 同	五五九六八〇	第九五二同	四五〇三六〇	室蘭 同	三〇五八〇	大村 同	一四四八九〇
新竹 同	一四八五七〇	霞浦海軍航空隊	三三三四〇〇	東京 同	三七三三〇	霞浦 同	一四七六四〇
第八一同	三九〇四八〇	支那方面艦隊附屬航空隊	三二四〇七〇	新潟 同	三五七六〇	湊 同	三三四四四〇
第二〇二同	七九六〇〇	第四十一海軍航空基地隊	五八五〇	若松 同	三三〇三〇	岩國 同	三〇二〇〇
第二〇四同	五六六〇	木更津 同	三四〇三三〇	滿洲國同	一五三三三〇	大湊 同	一〇四三三〇
第二五一同	七九八〇〇	木更津海軍航空隊殘留隊	三七八五三〇	門司 同	一二八〇〇	舞鶴 同	五七六六〇
第五八二同	七五八七〇	第一海軍航空基地隊 横濱航空基地	七六八〇	泰國 同	三三五三〇	海南 同	一五〇五八〇

七

0582

山中 同	一〇七四六〇	第百一同	第五五〇一〇	第十一海軍航空廠	三三〇一六二〇	福岡 同	四五二一〇〇
第四 同	六三四四〇	第百二海軍經理部 パリックババン支部	八三〇七〇	同 大分支廠	三三〇〇七〇〇	大阪 同	三七七三〇〇
第八 同	三三三〇〇〇	同 マカツナル支部	二五九三三〇	第二海軍航空廠	一九六五八六五〇	新潟 同	四三九五〇〇
第百一同	一九九五〇	第八海軍經理部	七〇〇〇〇	同 鹿屋支廠	二五〇八八五〇	熊本 同	四八〇五〇
第百二同	一九四四〇	第百〇三同	三九五五〇	第四海軍航空廠	一九三三〇〇	札幌 同	四三三〇〇
大湊共済組合病院	七〇八〇〇	大阪海軍監督官事務所	六四四六〇	第六一同	四五六一九五〇	長野 同	三九一九〇
大阪海軍經理部	四九三三〇	八幡 同	一五四四三〇	第一〇二同	一三四四三〇	金澤 同	四八二八〇
大湊 同	三三八三〇	名古屋 同	三七九六〇	第一〇三同	一七三三〇	神戸 同	五三六五〇
舞鶴 同	三三四三八〇	廣島 同	九〇五〇	第一〇八同	一六四三〇	名古屋 同	四七七八〇
鎮海 同	二一九九〇〇	室蘭 同	六〇四三〇	廣海軍工廠	三二四八六〇	高松 同	四九九七〇
海南 同	八三〇六〇	福岡 同	七四九五〇	豊川 同	五一二五八〇	宇都宮 同	三六七九〇
第一 同	一七〇二六〇	玉野 同	七三七七〇	光 同	九〇三八〇	大湊海軍港務部	一九七三〇
同 青島支部	一七〇九〇〇	長崎 同	二二三八九〇	舞鶴 同	二六八九五〇	馬公 同	三三六六〇
同 漢口支部	三七四〇〇	第一海軍航空廠	七三三〇九〇	鈴鹿工廠(假稱) 設立準備事務所	六〇〇七〇	上海 同	六〇七六〇
第四海軍經理部	九三七八〇	第二 同	八一九三八〇	秋田地方海軍人 事部	四七七〇	鎮海 同	一九三三〇

徳山 同	一四五一〇	第四海軍々需部 ハラオ支部	一六八六〇	第十六 同	三三九〇	佐世潜水艦基地	三五九〇
第四 同	三〇八〇	第四海軍々需部 グエセリン支部	四三六四七	第二十五 同	二九五七〇	東京海軍通信隊	五四五〇
第八 同	一六三三〇	第八海軍々需部	一七二〇〇	第二十七 同	二〇七二〇	幌筵 同	六九七〇
第十 同	一一三七八〇	第一百一海軍々需部 部サイゴン支部	三七三三〇	第二十八 同	二〇四六〇	大湊 同	一九九七〇
第二港務部	一九七七〇	第一百一海軍々需部	一三三一九〇	第三十一 同	二八〇九二〇	大阪 同	一一三九七〇
大湊海軍警備府	一六四六〇	第一百二海軍々需部	一三九三八〇	第三十二 同	二七五七〇	高雄 同	二三五六〇
大阪 同	一八八九〇	第七號掃海艇	一〇〇三五〇	第三十三 同	二九三三〇	大和田 同	二九三〇〇
海南 同	五八三八〇	第十一號掃海艇	一〇九四六〇	第三十四 同	一三三六〇	父島 同	一五〇三〇
海南海軍特務部	二四四八三〇	第十二號 同	一〇三四七〇	第三十五 同	一四八二〇	舞鶴 同	一六三六〇
大湊海軍々需部	五七三五〇	第十六號 同	一〇五七〇	第四十一 同	三六七四〇	第一聯合通信隊	九六三〇
舞鶴 同	二五五七五〇	第十七號 同	八七二〇	第四十三 同	四一八九〇	第四海軍通信隊	三三三九〇
鎮海 同	三五二五〇	第十八號 同	九六六〇	第六潜水艦基地	一〇〇五五〇	第五 同	一九三五〇
海南 同	四三二一六〇	第二十號 同	九三三〇	第八 同	一五七四〇	第六 同	三七六三〇
第一海軍々需部	一四〇三六〇	第二十一號 同	八〇九〇	第二十一 同	三九七六〇	第八 同	一五八三〇
第一海軍々需部	二六七九四〇	第一掃海隊	二四三六二〇	第八十五潜水艦基地	一六二二〇	第十二 同	一三九六〇

海軍公報（部内限） 號外

九

0584

第二十一同	大湊同	舞鶴同	舞鶴同	第二同	第二十一同	第二十四同	第八十五同	大湊海軍工作部	第一同	第百一同	第一海軍火藥廠	第二同	第一海上護衛隊	第二同	伊勢海軍防備隊	紀伊同	下關同	鎮海同	佐伯同
一四六五〇	一六三三四〇	七七七〇〇	一、二八〇三〇	一、二八〇三〇	一、二八〇三〇	一、二八〇三〇	一、二八〇三〇	八九四〇〇	一、〇三六四〇	四八六九〇	五、二〇三九〇	六、二六三三〇	一、三五四九〇	八、六三九〇	四、〇八三〇	七、五〇八三〇	四、〇六九〇	一、五九二七〇	二、五二二三〇
大湊同	舞鶴同	舞鶴同	舞鶴同	舞鶴同	舞鶴同	舞鶴同	舞鶴同	舞鶴同	舞鶴同	舞鶴同	舞鶴同	舞鶴同	舞鶴同	舞鶴同	舞鶴同	舞鶴同	舞鶴同	舞鶴同	舞鶴同
一、六三三四〇	七七七〇〇	六、四五七五〇	三、四七三六〇	三、二三八四〇	六、六八三三〇	三、三〇八三〇	三、三〇八三〇	三、三〇八三〇	三、三〇八三〇	三、三〇八三〇	三、三〇八三〇	三、三〇八三〇	三、三〇八三〇	三、三〇八三〇	三、三〇八三〇	三、三〇八三〇	三、三〇八三〇	三、三〇八三〇	三、三〇八三〇
舞鶴同	大湊同	第一同	第四同	第四海軍建築部	第四海軍建築部	第四海軍建築部	第四海軍建築部	第四海軍建築部	第四海軍建築部	第四海軍建築部	第四海軍建築部	第四海軍建築部	第四海軍建築部	第四海軍建築部	第四海軍建築部	第四海軍建築部	第四海軍建築部	第四海軍建築部	第四海軍建築部
一、二八〇三〇	一、二八〇三〇	八、九四〇〇〇	三、六〇三三〇	一、〇三六四〇	一、〇三六四〇	一、〇三六四〇	一、〇三六四〇	一、〇三六四〇	一、〇三六四〇	一、〇三六四〇	一、〇三六四〇	一、〇三六四〇	一、〇三六四〇	一、〇三六四〇	一、〇三六四〇	一、〇三六四〇	一、〇三六四〇	一、〇三六四〇	一、〇三六四〇
第二同	第三同	第十五同	第四十一同	第四十二同	第四十三同	第六十一同	第六十二同	第八十一同	青島方面特別根	羅津方面特別根	旅順同	父島同	第五特別根據地	第六同	第六同	第六同	第六同	第六同	第六同
三、七五八三〇	四、八九三三〇	二、五八四六五〇	一、四九七三三〇	五、九八三三〇	八、〇五四〇〇	一、三〇〇六五〇	七、四〇九三〇	六、四〇三三〇	四、〇三九四七〇	七、五五七七〇	五、七九三三〇	一、二六四五〇	九、五四五三〇	一、二四五八〇	一、二四五八〇	一、二四五八〇	一、二四五八〇	一、二四五八〇	一、二四五八〇

第七同	一〇八四九〇	特設海軍燃料廠	二四九〇四〇	第六十驅潛隊	一四三三〇	第十二設營隊	三〇五四〇
第八同	三六〇九〇	補給部	三八七〇	第一砲艦隊	四六五四〇	帝洋丸監督官	六二五〇
第九同	六六四〇〇	設立準備委員	三五九〇	上海海軍特別陸戰隊	三三六五〇	南西方面艦隊	八三四四〇
第十同	九二〇六〇	東京地方海軍運輸部	一七〇〇〇	第九十一驅潛隊	一三五三〇	海軍部軍事顧問	二四四〇〇
第十一同	一八三三〇	加藤海軍大佐事務所	二一三五七〇	支那方面艦隊司令部	八五二〇	海軍部軍務顧問	二四四〇〇
第十二同	九四五六〇	舞鶴特別第一陸戰隊	八六七〇	支那中央海軍學校	九七三四〇	第一海軍々用郵便所	二四三三〇
第十二特別根據地隊	二〇七三九〇	海軍療品廠	八五八〇	領海要港部工作部	一三三四〇〇	第一砲艦隊	四三三五〇
第二十一特別根據地隊	六五五五〇	光海軍共濟組合	一九〇〇〇	第一監視艇隊	四九二八三〇	巴拉オ地方海軍運輸部	三八〇
第二十二特別根據地隊	三三五三〇	第五氣象隊	六七〇〇	百一海軍燃料廠	三六三九三〇	呂號第三十四潛水艦	八八三七〇
第二十三特別根據地隊	八八八五〇	足摺艦裝員	一四五四〇	第十三砲艇隊	一〇七四〇	伊號第二十二潛水艦	一〇七四〇
第二十四特別根據地隊	一四〇四八九〇	第六十五驅潛隊	一〇〇三六〇	第五十六驅潛隊	八〇七〇	舞鶴鎮守府	三六六八九〇
第三十一同	一〇〇一七〇	伊號第三百二十一潛水艦	一五三〇	第一臨時設營班	九〇七九〇	大竹海兵團	二〇五九五〇
第三十二同	一七〇〇九〇	海南海軍刑務所	五〇三七〇	第二十三驅潛隊	三三六九〇	第一海軍技手養成所	一〇一三〇
大湊警備府軍法會議	三三三三〇	第二十六驅潛隊	二五八〇	第三十二驅潛隊	三二二七〇	第一海軍刑務所	三三七〇
		上海地方海軍運輸部	六八九七〇	第四回航空班	一七四四〇	第一海軍燃料廠	一九四四六〇
		第四氣象隊		第十四回同	一三七〇〇	第二海軍燃料廠	五四七三五〇

海軍公報 (部内限) 號外

0586



第三海軍燃料廠	五三三〇〇	第一根據地隊	六四九〇
第百一海軍燃料廠 タラカン支廠	一六八九〇	舞鶴鎮守府軍法會議	七四八〇
第百二海軍燃料廠	三三七〇	舞鶴海軍刑務所	五七七〇
第四海軍燃料廠	七八四八〇	舞鶴地方海軍運輸部	六〇一六〇
バリツクババン運輸部	三三〇〇	第十四砲艦隊	三六五五〇
第十一驅潛隊	三二七二〇〇	第四海軍グエゼリン支部	一八九六〇
第三十一驅潛艇	六〇三七〇	グエゼリン第四海軍建築部	二九七二〇〇
第三十二驅潛艇	四七六〇	第八海軍建築部	一六四五〇
第五十二驅潛隊	八五〇一〇	第百一海軍建築部	一八九三三〇
第五十七驅潛隊 (國光丸)	一三三〇九〇	第百三海軍建築部	四九一六〇
南西方面艦隊民政府	九六七三〇	同 ダバヲ支部	二五三九六〇
第二南遣艦隊軍法會議	四三七三〇	南 崎、五 雄	五〇〇〇
支那方面艦隊軍法會議	五〇八八〇		
第十二設營隊	二四五〇〇		
地	一二五〇〇〇		

昭和十八年十一月十日

海軍省經理局

海軍主計少佐 山内 伸 穂

0587

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

○勅語

官房第一三七一號

本日聯合艦隊司令長官ニ對シ左ノ勅語ヲ賜ハリタリ

昭和十八年十二月六日

海軍大臣

勅語

聯合艦隊航空部隊ハ今次「ギルバート」方面海域ニ於テ寡勢克ク連日ニ亘リ悪天候ヲ冒シ勇戰奮闘大ニ敵艦隊ヲ撃破セリ朕深ク之ヲ嘉ス  
惟フニ戦局ハ益多端ヲ加フ汝等奮勵努力以テ朕カ信倚ニ副ハムコトヲ期セヨ

海軍公報 (部内限) 號外

0588

昭和十八年十二月六日(月)  
海軍大臣官房